射撃部

1990(平成2年)・8　山梨県営射場、SB練習。大木盛義主将の立射。

1963(昭和38年)・3　自衛隊習志野空挺隊合宿。橋爪啓二選手のSB膝射実弾練習。

1934(昭和9年)・11　鶴見帝国猟友会クレー射場。第1回WKM三大学クレー射撃戦に優勝の本塾チーム。中央、優勝カップを持つのは門田貴三主将。

1940(昭和15年)・11　明治神宮体育大会、全日本選手権に優勝した本塾のメンバー。大久保陸軍射場。中央が金原徳三主将。

1940(昭和15年)・11　伊藤重蔵選手の据銃練習。綱町グラウンド。

1934(昭和9年)・11　陸軍大久保射場(トンネル射場)。第4回早慶定期戦に4連勝を遂げた本塾選手。中央、優勝楯を持つのが門田貴三主将。

1940(昭和15年)・11　堀正彦選手の据銃練習。綱町グラウンド。

1940(昭和15年)・11　第10回早慶定期戦に勝利を収めた本塾メンバー。大久保陸軍射場。

1940(昭和15年)・11　同年3月卒業生の入営壮行会。中列中央が射撃部創立者、槇武彦先輩(大正15年卒)。
前列左より2人目、選手権優勝楯を持つ金原主将。右端早慶定期戦の優勝楯を持つのは堀正彦選手。

1956(昭和31年)・11　神奈川県富岡射場。全日本選手権に総合優勝した本塾チームの祝勝会。
優勝楯、優勝旗、優勝カップ、各種目優勝賞状を総なめにした。前列中央吉岡克昌主将。

1941(昭和16年)・11　小石川射場、トンネル射場の前に立つ卒業生。左より手塚二郎、村田豊主将、端山貞二、村田実。手に持っているのは陸軍三八式歩兵銃。

1924　当時の馬術部員、槇武彦、古谷礼三等が慶應義塾射撃会を創設。同時に結成された関東学生射撃連盟初代幹事長にも槇武彦が就任。1894年頃の記録に同名の射撃会の名が見えるが、現在の射撃部と直接関係はない。学生射撃そのものの活動は槇等の卒業後低調で1930年頃から次第に活況をみせた。

1931　第1回早慶戦を陸軍大久保射場において挙行。ちなみに、戦前の学生射撃はもっぱら陸軍の三八式歩兵銃をもちい、直接間接陸軍の監督、指導の下で行われていた。早慶定期戦は第1回から1934年の第4回まで本塾の連勝。

1932　春秋の関東学生、秋の全日本学生大会すべて優勝、黄金時代を築いた。中心選手は谷敏太郎、井上利雄、梅田三良、石川正文、児玉禎二郎、門田貴三、隅田住夫、内田誠、小川国比古、浅賀武夫等。

1933・5　塾内対抗競技部新種目団体、加盟。

1934　第1回東西6大学(慶大、早大、明大、同志社、立命館、関大)対抗戦優勝。／11　第1回3大学(慶大、早大、明大)クレー射撃戦を鶴見帝国猟友会射場で開催。この対抗戦は日支事変の影響で1936年までの3回で中止されたが、3回とも本塾優勝。個人も三島錦三、堀正彦等本塾が占めた。

1936・5　2・26事件に続く首都戒厳令施行のため、銃器弾薬の移動禁止により練習、競技会の開催不可能となり事実上、部活動中断。

1937　日支事変勃発。学生射撃全般にわたり軍事的色彩が強くなる。

1939・5　第17回関東学生に3位入賞。本塾久々の上位浮上。

1940　秋、第1回東京6大学(慶大、早大、明大、法大、立大、帝大)リーグ戦。本塾2勝3敗で4位。／11　明治神宮体育大会(全日本選手権を兼ねる)団体優勝。選手は金原徳三、堀正彦、秋沢一郎、伊藤重威、村田実。個人三姿勢に村田豊3位。

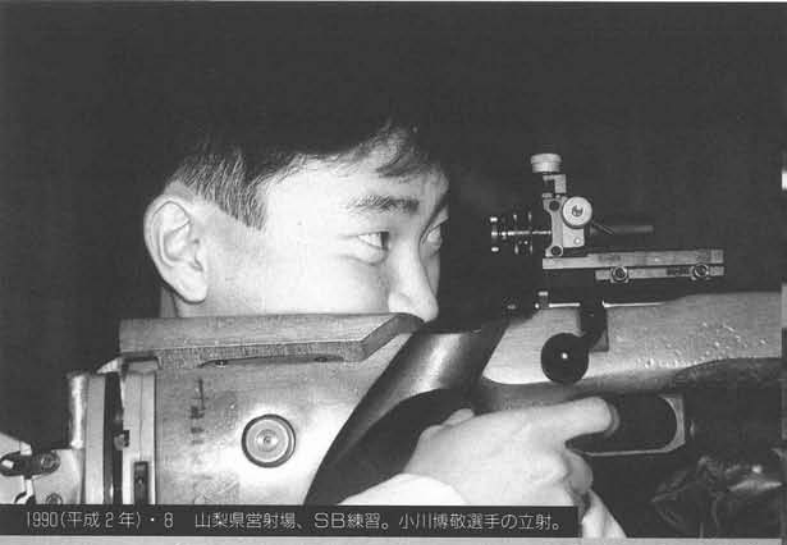
1941・1　射撃部として体育会加盟。部長奥井復太郎。／11　明治神宮大会、個人三姿勢に村田豊2位。なお村田豊は本大会において聖恩旗々手に選ばれた。

1942　春、6大学リーグ戦2位。関東学生優勝。対同志社定期戦に初めて優勝。早慶定期戦優勝(通算7勝5敗)。出場選手は塩野信治、桑原英孝、恩田高宏、小野隆、町田勉、村地聞一、近藤勉、三木力雄、三木十郎等。

1943　太平洋戦争戦況厳しく、射撃部は報国団体育科射撃班に編入。対外試合はすべて中止。もっぱら一般塾生の射撃訓練の指導に任じる。／10　学徒動員により、実質的な部活動を停止。

1945　終戦。進駐軍の命により大日本射撃協会およびその傘下の全組織解散。学生射撃も完全に消滅。

1949　旧射撃協会関係者が集まり、ライフル



1990(平成2年)・8　山梨県営射場、SB練習。小川博敬選手の立射。

1990(平成2年)・8　山梨県営射場、SB練習。大木盛義主将の膝射。

射撃の復活を計画。／11　第4回国民体育大会開催と期をあわせ、毎日新聞社後援を得て、戦後初めての全国規模の競技会を開催。東京浜町公園弓道場において空気銃を用いた。三田射撃倶楽部(谷敏太郎、堀正彦、塩野信治、三木力雄)団体2位。堀正彦個人優勝。

1953　多少の曲折を経て、日本ライフル射撃協会発足。理事長、三田射撃倶楽部谷敏太郎。関東学生射撃連盟発足。幹事長、本塾間瀬正三。塾内においても谷敏太郎、村田豊らを先頭に射撃部の再興を図り、間瀬正三、三上義弘、台座惇人、野島誠等により射撃倶楽部復活。学生、OBともにその充実に努め、常に上位の成績を占めるようになった。

1954　早慶定期戦を復活。本塾優勝。

1956・11　神奈川県富岡射場において挙行された第3回全日本学生選手権で団体総合優勝。個人もARF三姿勢で林彰信が優勝、吉岡克昌伏射、麻生泰明膝射におのおの優勝。その他出場選手は守田郁、池田篤俊、根岸邦夫、北野啓蔵、稲井徹男、山中真沙彦、笹原謹二。

1957・5　関東学生団体総合2位。SBR(小口径銃)1位、ARF(自由空気銃)1位、ARS(指定空気銃)6位、個人SBR三姿勢、守田郁優勝。／12　体育会射撃部に復帰、浅子勝二郎部長。

1958　以後関東学生、全日本学生等において常に優勝を争う上位を占めていたが、団体としてはついに優勝の機会に恵まれなかった。

1961・11　全日本学生個人SRB、富永恵夫優勝。／12　関東学生伏射選手権で個人SRB、富永恵夫優勝。

1962・6　一部射撃部員の不祥事事件による対外試合停止の措置以降、ながい低迷期に入る。

1964　関東学生2部に転落。戦後連勝を続けた早慶定期戦も以降2勝10敗と振るわず、通算成績も17勝16敗とほぼ同列に並ばれてしまった。

1974・12　宿願の日吉射場完成。

1975・6　関東学生において17シーズンぶりに1部復帰。／11　6年ぶりに早慶定期戦に勝ち、特に多田裕嘉はAR立射384点の学生新記録(実質的には日本新記録)を樹立。／10　関東学生、多田1位。全日本学生、多田2位で射撃部として初めて小泉体育賞を受賞。

1977　日吉高校に射撃部誕生。部長尾崎肇。銃砲刀剣等所持取締法の規定により、未成年者の射撃には種々の問題があるが、高校生の強い要望、日吉射場の利用等、環境の変化にともないい、尾崎部長、吉岡克昌監督の適切な指導で高校生部員が入部。

1980・11　和歌山南海射場で行われた全日本学生において、野沢健太郎SBR三姿勢551点で個人優勝。野沢はモスクワ・オリンピック候補選手に指名された。小泉体育賞も受賞。

1984・5　高校総体神奈川県予選に日吉高校

1990(平成2年)・8　山梨県営射場、SB練習。大木盛義主将の伏射。

1991(平成3年)・6　日吉射場、AR練習。

1990(平成2年)・8　山梨県営射場、SB練習。小川博敬選手の伏射。

初優勝、全国大会に出場。

1985・8　古村典子は日韓学生競技に日本代表として渡韓、ARS 7位入賞。／8　日吉高校は奈良県営射場で行われた全国高校選手権に優勝。出場選手、大木盛義、伊東速人、小池泰輔、太田幹人、小川博敬。小泉体育賞受賞。

1986・8　日吉高校、鳥取県営射場における全日本高校で惜しくも1点差で2位。／11　関東女子学生において本塾2位。古村典子、伊藤みか、藤堂美穂子、猪谷朋代が出場。古村は個人戦優勝、小泉体育努力賞受賞。

1987・10　関東女子学生にて本塾1113点で優勝。個人も伊藤みか3位。古村典子5位。出場選手は両名の他、猪谷朋代、吉村由紀子。小泉体育努力賞受賞。

1990・12　第49回早慶定期戦、4335－4273で敗れる。通算26勝23敗。

1991・6　春季関東学生、4293点で1部6位。最近2部転落はないが1部中位を低迷。／8　日吉高校は福岡県営射場で行われた全国高校選手権において1113点の高校新記録を達成したが、順位は惜しくも3位。出場選手は増田尚之、山口和洋、石川隆道、伊藤武文。高校はこれで1885年優勝以降常に5位以内と好成績を残している。

1990(平成2年)・8　山梨県営射場、SB練習。小川博敬選手の伏射。